

平成27年度 魚沼市家庭科部 活動報告

部長 井口 聡子

1 研究主題

- 新学習指導要領の主旨を生かした家庭科授業の工夫・改善
 - ・家庭生活とのつながりを大切にする単元構想や授業の工夫
 - ・実感を伴って理解する学習活動の充実



2 研究の概要

- (1) 4月16日(木) 家庭科部会総会：小出郷文化会館
 - 年間事業計画
 - ・教科書の単元配列比較
 - 指導の見通しをもつことの大切さを確認
- (2) 8月7日(金) 研修会：魚沼市立伊米ヶ崎小学校
 - 実技講習「ミシンにトライ！手作りで楽しい生活」
 - ・指導計画・・・指導事項と順序の確認
 - ・ミシンを使った製作・・・つまずきやすいポイント 短時間で製作できる袋もの作り
 - 製作を通した気付きの共有

3 研究の実際

教科書の改訂に伴う学習計画の確認を入り口に、要望が多かった「ミシンの使い方」を実際の製作を通して研修する機会を設けた。

「家庭科の指導経験がない。」「久しぶりに教えるため、安全な正しい使い方を身に付けたい。」という声が聞かれた。また、学級の人数や備品の状態に差があるため、「どんなミシンを使うのか」「1人1台使えるのか」「学習ボランティアの有無」等、実態に応じ配慮すべき事項について話し合うことができた。また、製作を通して子どもにとって難しいであろう作業を予測し、どんな教材を準備すると分かりやすいか、アイデアを出し合った。短時間であったが巾着袋を完成させ、指導のポイントを押さえることができた。授業に生かせる研修となった。

4 成果と課題

今回の実技講習を通して、以下について協議し確認することができた。今後も、課題解決のためにさらに研修を深めていきたい。

①人数に応じた学習ボランティアとの連携

製作がミシンの不調で滞らないよう、事前の整備や授業時間に手を貸してくれる学習ボランティアの存在が重要である。家庭への協力を仰ぐとともに、手を貸してほしい内容について、予め十分打ち合わせておく。担任以外が指導することもあるため、早めに協力体制を作っておく。

②学習したことを活用する場の確保

授業時数が少ない中、作品展への出品等があると、作品の製作に時間がかかり、習熟を図る時間がとれないことがある。家庭での追試（ミシンを使って役立たせる経験）が必要である。家庭でも作品を見せたり、使えるものを作ったりすることで、できるようになったことの価値付けをしてもらう。学習カードに記録を残し、家の人からコメントをもらう、学習参観日に授業を見てもらい、一緒に作る時間を設ける等のアイデアが出された。

③家庭科での関わる場や話し合う場の確保

授業が作業だけに終始しないような工夫が欠かせない。作業工程を揃えて進めると、不安があったりうまくいかなかったりした時に、自然に教え合う姿が見られる。時間の終わりにできた所を見せ合う場を設けると、よさやうまく作業を進めるポイント等が共有でき、次時への意欲付けにつながる。他にも取組の工夫が上げられ、これから指導するヒントになった。



